Rinnai® システムキッチン用［ビルトインコンロ］
ガスクックトップ® 設置工事説明書

水無し両面焼グリルタイプ							
型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅	型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅
RS78W2□□R	RB78W2ARL/R RB78W2AR(G)L/R	A	75	RS38W3□□R	RB38W3ARL/R RB38W3AR(G)L/R	A	60
RXE78W2□□R	RB78W2ARL/R	A	75		RB38W3KRL/R RB38W3KR(G)L/R	K	60
RS78W2□□RX	RBG-S78W5GATS-L/R	A	75				
RS38W2□□R	RB38W2ARL/R RB38W2AR(G)L/R	A	60	RS31W3□□R	RB31W3SRL/R RB31W3SR(G)L/R	S	60
RXE38W2□□R	RB38W2ARL/R	A	60		RB31W3ARL/R RB31W3AR(G)L/R	A	60
RS71W2□□RX	RB71W2ARL/R RB71W2AR(G)L/R	A	75	RB71AW3□□R	RB71W3SRL	S	75
RB71W2□□R	RB71W2ARL/R	A	75	RB31AW3□□R	RB31W3SRL	S	60
RB31W2□□R	RB31W2ARL/R	A	60		RB31W3KRL	K	60
RS78W3□□R	RB78W3ARL/R RB78W3AR(G)L/R	A	75	RB71AW3□□R2	RB71W3AR2-L	A	75
					RB71W3KR2-L	K	75
RXE38W3□□R	RB38W3KRL/R	K	60	RB31AW3□□R2	RB31W3AR2-L	A	60
RX38W3□□R	RB38W3ARL/R	A	60		RB31W3KR2-L	K	60
	RB38W3KRL/R	K	60				

レンジフードファン連動機能付水無し両面焼グリルタイプ							
型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅	型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅
RRB71W2□□R	RRB71W2ARL/R	A	75	RRB71AW3□□R2	RRB71W3AR2-L	A	75
RRB31W2□□R	RRB31W2ARL	A	60	RRB31AW3□□R2	RRB31W3AR2-L	A	60

水無し片面焼グリルタイプ							
型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅	型　式	型式の呼び	トッププレートのタイプ	トッププレートの幅
RS38M□□R	RB38MSRL/R RB38MSR(G)L/R	S	60	RX38M□□R	RB38MKRL/R	K	60
				KBE-60M□□R	RB38MKRL/R	K	60
	RB38MKRL/R	K	60	RB31AM□□R	RB31MSRL	S	60

※「型式」の□内の文字は、トッププレートのバリエーションを示します。
※トッププレートのタイプはA、SまたはKのタイプがあります。
※「型式」の38、78はガス接続口を機器の本体底面の手前と奥側に２個所設けたタイプです。

◆工事される方へのお願い

- この機器を安全に正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって指定された工事を行ってください。
- 設置工事が終わったら 7 設置工事後の点検確認 のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 工事終了後は、この「設置工事説明書」と「取扱説明書」をいっしょにして必ずお客様にお渡しください。

ページ

1 安全に正しく設置工事していただくために — 2～4
2 寸法図 — 5
3 同梱部品と設置工事後不要となる部品の確認 — 6
4 ガス配管工事・ガス配管接続工事・配線工事 — 7～8
5 コンロの単独設置 — 9～14
6 コンロとオーブンのセットでの設置 — 15～19
7 設置工事後の点検確認 — 20
8 試点火および試運転 — 20

1 安全に正しく設置工事していただくために

機器を安全に正しく設置工事していただくためや、設置工事作業者や使用者への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの説明書では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

一般的な警告・注意　一般的な禁止　必ず行う　分解禁止　換気必要

特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠警告

■設置工事は必ず、この「設置工事説明書」と「ガス機器の設置基準および実務指針」（日本ガス機器検査協会刊）に従う

変則的な設置工事をすると事故や火災の原因となります。

確認

■この機器を安全に正しくご使用いただくために、この「設置工事説明書」をよく読み、指定された工事を行う

確認

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

金属管や金属可とう管などによる機器へのガス配管接続工事・取りはずし工事は必ず有資格者が行ってください。

確認

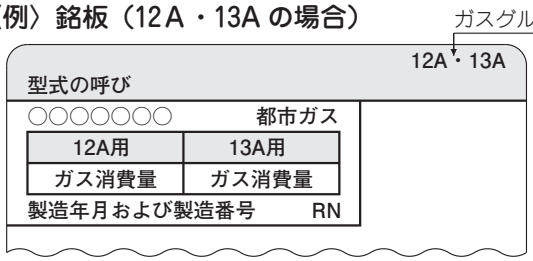
⚠注意

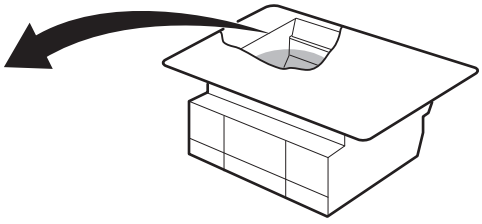
■設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを銘板で確認する

合っていない場合そのまま使用すると火災や不完全燃焼により、一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどしたりすることがあります。また故障の原因にもなります。
銘板は機器の本体内部左後方に張ってあります。

ガスの確認

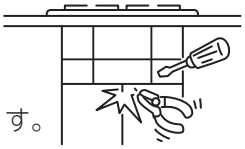
〈例〉銘板（12A・13A の場合）





■絶対に改造・分解は行わない

設置工事で必要なところ以外は絶対に改造・分解は行わないでください。
一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、火災の原因になるおそれがあります。



分解禁止

■この機器は一般家庭用です

業務用として使用しないでください。機器の寿命が極端に短くなります。

禁止

⚠注意

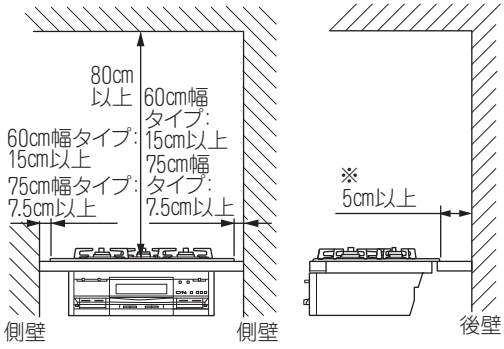
■設置するときは可燃物との距離を確実に離す

・可燃物との距離を確実にとる（下図参照）
・守れない場合は別売の防熱板を取り付ける

●火災予防条例で定められています。必ず守ってください。
距離が近いと火災の原因になります。また可燃性の壁にステンレス板などを、直接取り付けてご使用になっても、熱伝導で長年の間に可燃物が炭化し火災になることがあります。

●周囲に可燃物（木製の壁、棚など）のある場合は次のようにしてください。
トッププレートより上の側面は〔75cm 幅タイプ:7.5cm 以上、60cm 幅タイプ:15cm 以上〕、後面は 5 cm 以上※、上部はトッププレート上面より80cm 以上離して設置します。

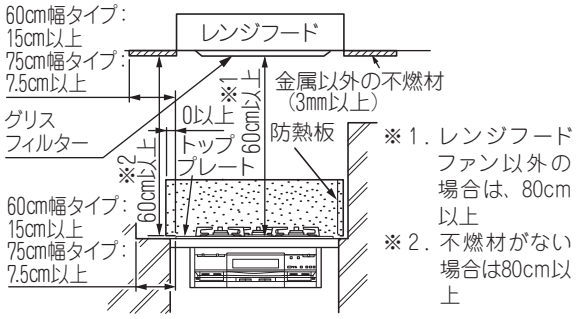
●可燃性の壁（ステンレス板などを張り付けた可燃性の壁も含む）から側面は〔75cm幅タイプ:7.5cm以上、60cm幅タイプ:15cm以上〕、後面は 5 cm以上※、また、上部はトッププレート上面から80cm以上離して設置できない場合は壁面に別売の防熱板を取り付けてから設置します。調理台・流し台の側面などが可燃性で機器のトッププレートより高い場合も、流し台側面を保護してください。



※製造年月09.03以前は15cm 以上

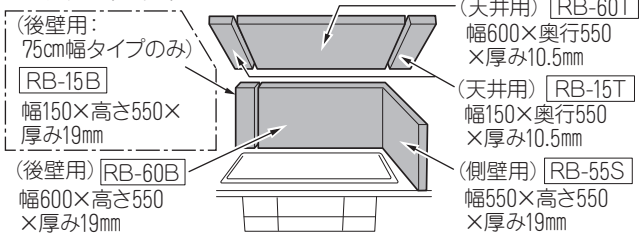
●ガス機器防火性能評定試験基準の変更に伴い、可燃物からの後方離隔距離が製造年月によって異なります。
製造年月は銘板に記載してあります。
〈例〉09.04 -000001（□：製造年月）
※製造年月09.03以前は15cm 以上になります。

●オーブンとセットで設置する場合、オーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。



※防熱板については、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。

防熱板（別売）



■設置するときは、下記の項目に注意してください

●前記の設置基準は、共同住宅など（戸建て専用住宅、共同住宅、店舗併用住宅の住宅部分であり、営業用および一般事業所の従業員食堂、学校、病院の給食用等の以外のもの）の用途の建築物であり、また排気方式が、各住戸の厨房用ダクトが単独排気方式の場合に適用されます。

●設置場所を決めるときは、お客様とよく相談する。

●燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や火災予防条例に定める防火措置を施す。

●この機器を設置される台所が、建築基準法に定める（内装制限を受ける調理室）に該当する場合は、台所全体についても内装材の制限を受けます。

●水平で安定した場所に設置する。

●指定の防熱板を必ず使用する。

●車両・船舶には設置しない。

●排気口をステンレスの水切りカバー（水返しカバー）などでふさがない。

●十分に換気のできるところに設置する。

●水のかかるところには設置しない。

●機器のまわりや上に、スプレー缶・プラスチック・油・紙類などを置かない。

●棚の下など落下物の危険のあるところには設置しない。

●湯沸器や樹脂製の照明器具の下へ設置しない。

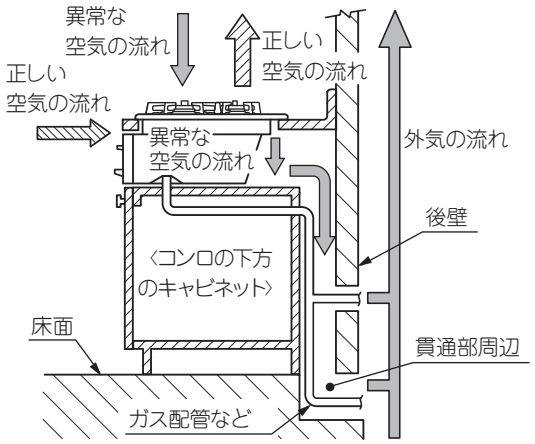
●強い風が吹き込む場所や機器本体後方から風が吹き込む場所には設置しない。
（点火しなかったり、温度センサーや立消え安全装置が正しく働かないことがあります）

⚠注意

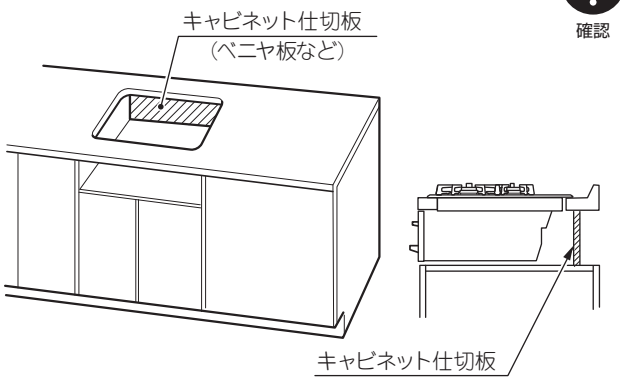
■キャビネットに背板があるか確認する

ベニヤ板などにより機器の後方をふさいでください。

キャビネットに背板がないと、ガス管などの配管貫通部で内気と外気がつながり、異常な空気の流れが起こるため、炎がもぐりこんだり、消火したり、不完全燃焼することがあります。



キャビネット仕切板設置例

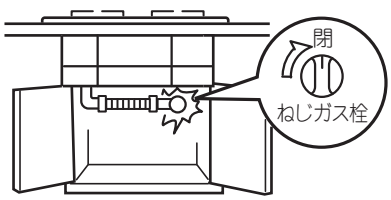


確認

■設置工事後、長期間使用しないときはガス栓（ねじガス栓）を閉める

ガス栓（ねじガス栓）は機器下方または、となりのキャビネット内にあります。

ガス事故防止のため必ず行ってください。



ガス栓を閉める

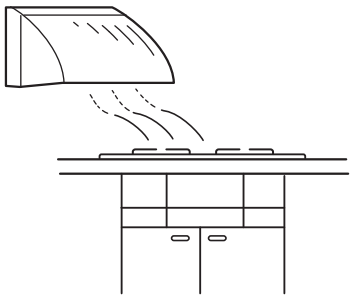
■十分な換気設備がある場所に設置する

この機器にはレンジフードファンが必要です。

設置するガス機器および同一室内に設置してある他の機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置してください。

ただし、室内給気式（FE･CF）給湯器・ふろがまを使用している場合は、レンジフードファンを回すと排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒の原因になるため、注意が必要です。

レンジフードファン連動タイプの場合、該当給湯器などの設置は避けてください。



換気必要

■機器設置の際には必ず手袋をする

けがの防止になります。

確認

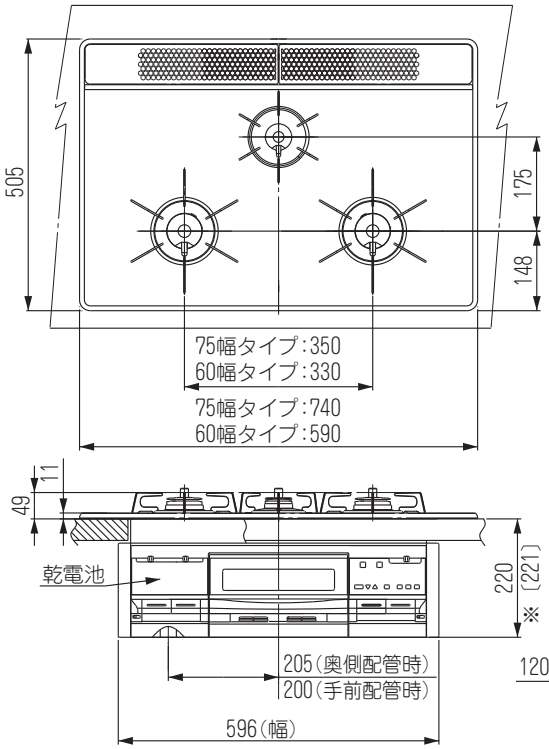
お願い

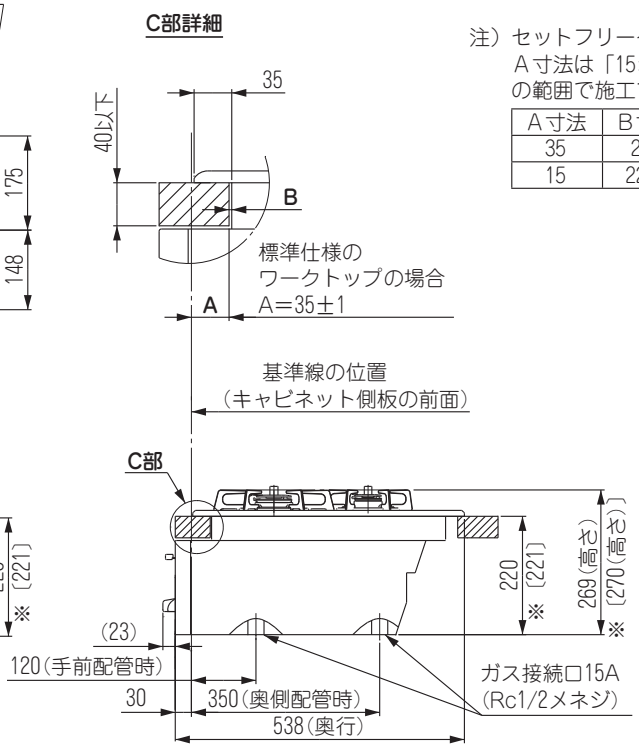
- ◉本体をタイルやモルタルで、塗り込まない。
- ◉耐久性などの点から、できるだけ湿気の少ないところに設置する。
- ◉ワークトップ材は熱硬化性樹脂化粧板（JIS・K・6903）またはこれと同等以上の材料を使う。
- ◉表面がニス引きのものは変色するおそれがあるので使用しない。
- ◉本機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取りはずしてください。そのままにしておきますと、思わぬ事故になります。

2 寸 法 図

1．外形寸法図

（単位：mm）





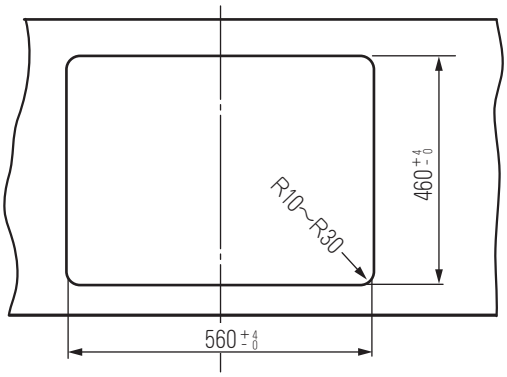
注）セットフリータイプなので
A寸法は「15±1～35±1」
の範囲で施工できます。

A寸法	B寸法
35	2.5
15	22.5

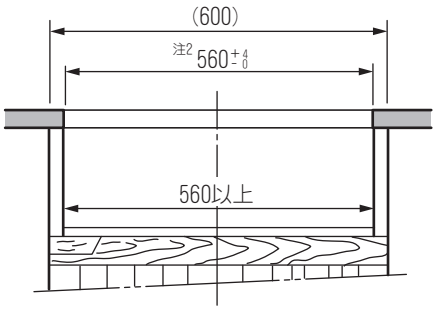
※〔 〕内寸法はRS78W2□□RXを示す。

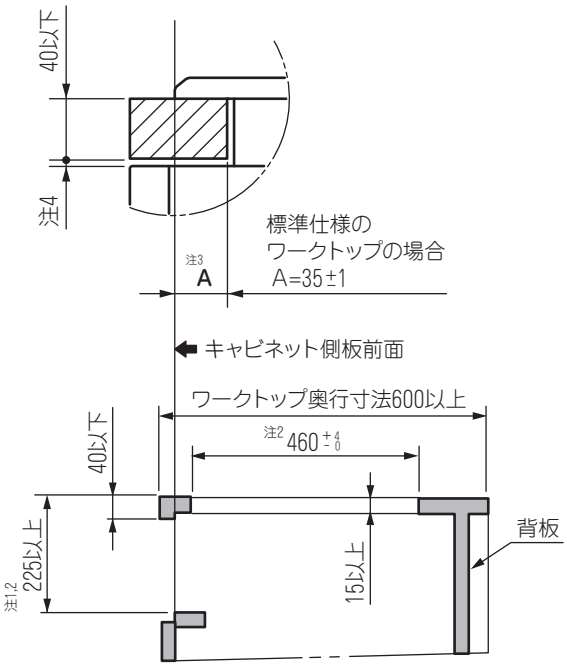
2．キッチン組み込み寸法図

（単位：mm）



〈ワークトップ切り込み寸法〉





注１　高さ寸法はワークトップ上面からの寸法です。

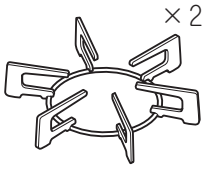
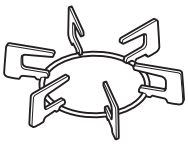
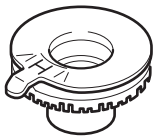
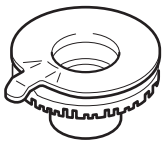
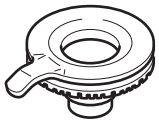
注２　ワークトップ開口寸法です。公差内になるよう加工してください。

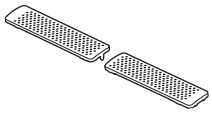
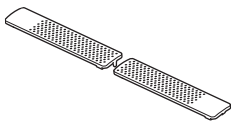
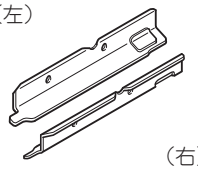
注３　A寸法は15～35mm の範囲で設置できます。

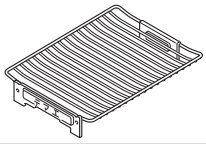
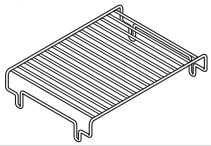
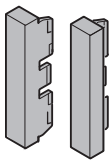
注４　機器設置時において、空気が流れるようにワークトップ下面（パッキンなどを含む）と本体上面とのすき間を必ず 3 mm 以上確保してください。

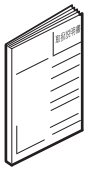
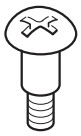
3 同梱部品と設置工事後不要となる部品の確認

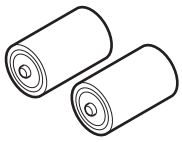
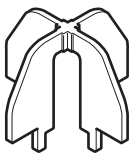
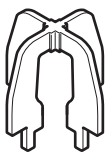
① 部品の不足がないことを確認する。

部品名	ごとく(大)	ごとく(小)	バーナーキャップ(大)	バーナーキャップ(標準)	バーナーキャップ(小)
形 状	 ×2		 (H刻印)		

部品名	排気口カバー	※下火カバー
形 状	(ステンレス枠トッププレートの場合)  (アルミ枠トッププレートの場合) 	(左)  (右)

部品名	グリル焼網	エンドピース
形 状	(水無し両面焼グリルタイプの場合)  (水無し片面焼グリルタイプの場合) 	

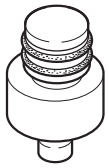
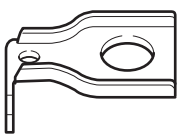
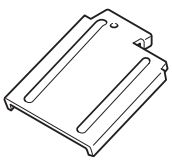
部品名	取扱説明書	※クックブック	※魚とって	トッププレート固定ねじ
形 状				(ステンレス枠トッププレートの場合のみ) ×2 

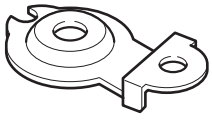
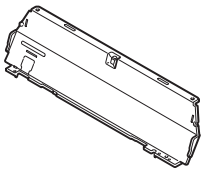
部品名	単1形アルカリ乾電池	施工用キャップ(大)	施工用キャップ(小)
形 状		 ×2	
		コンロバーナー本体にはまっています。 トッププレートセット後、不要になります。	

◉施工取っ手を持って、機器を段ボール箱より取り出してください。

◉※印の部品は付属していない機種があります。付属品の有無は取扱説明書を参照してください。

② 設置工事の際、コンロから取りはずし不要となる部品を確認する。

	コンロの単独設置の場合	コンロとオーブンのセットでの設置の場合		
部品名	底シール栓	接続用シール栓	シール栓押え板	接続口カバー
形 状				

部品名	底シール栓押え板	本体カバー
形 状		

4 ガス配管工事･ガス配管接続工事･配線工事

⚠警告

■ガス配管接続には専門の資格・技術が必要です

確認

- ●接続の際はガスシール材を必ず使用する。
- ●ガス栓（ねじガス栓）を必ず取り付ける。
- ●接続完了後、ガス漏れのないことを確認する。
- ●取りはずした部品は必ず取り付ける。

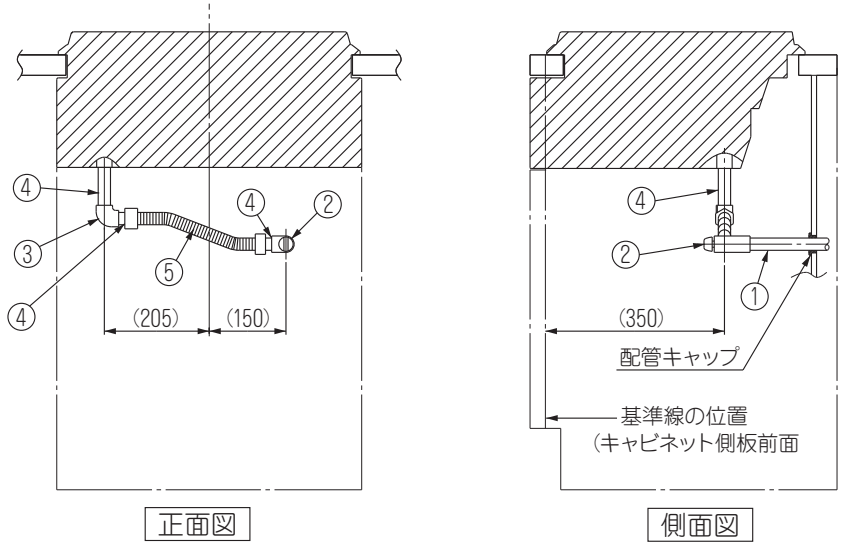
1．ガス配管方法

① コンロの配管方法

◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続してください。

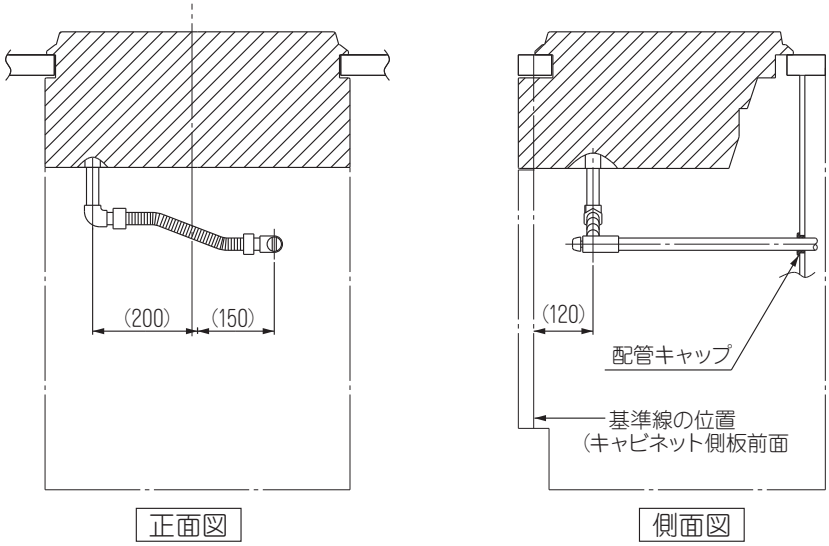
◉配管周囲のすき間をなくすように、配管キャップなどを取り付けてください。すき間が大きいと消火したり、炎がもぐりこんだりして異常過熱の原因になります。

（単位：mm）



正面図　　側面図

標準配管例（奥側配管時）



正面図　　側面図

標準配管例（手前側配管時）

No	配管仕様
①	ガス管（R1/2）
②	ねじガス栓
③	エルボ（Rc1/2）
④	ニップル（R1/2）
⑤	金属可とう管

② ビルトインコンロとビルトインオーブンをセットで設置する場合の配管方法

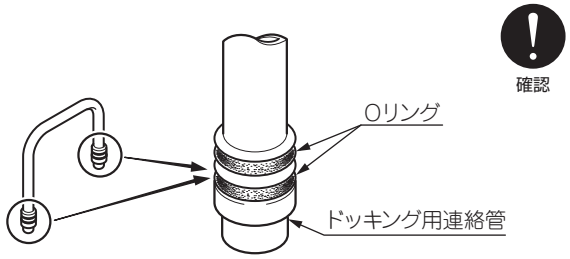
◉ガス配管接続は金属可とう管または金属管接続してください。

◉ガス配管接続と配管方法と電気配線工事は、ビルトインオーブンに同梱してある「設置工事説明書」を参照してください。対応オーブンは、型式にU、S（例：RSR-S14E）とつくタイプです。

2．ビルトインコンロとビルトインオーブンの接続方法

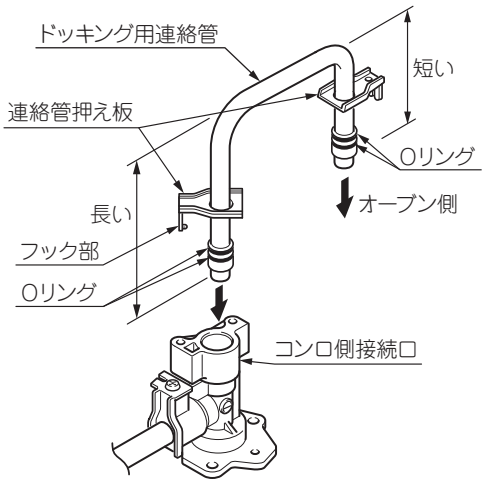
⚠注意

■ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する



① ドッキング用連絡管を取り付ける。

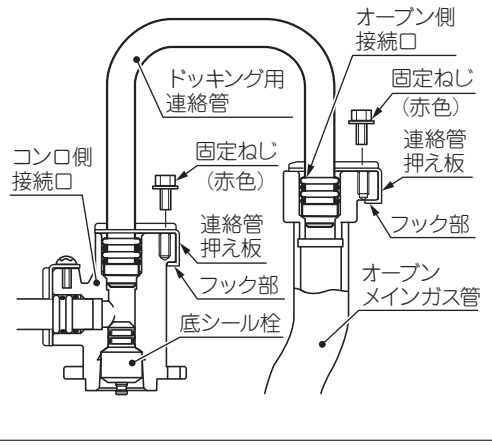
◉ビルトインオーブンに同梱してあるドッキング用連絡管の長い方をコンロ側接続口に、短い方をオーブン側接続口に、確実に奥まで挿入する。



② 連絡管押え板を取り付ける。

◉ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口、オーブン側接続口各々にかかるようにして、固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付けてください。

◉連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を確実に奥まで押し込んでください。

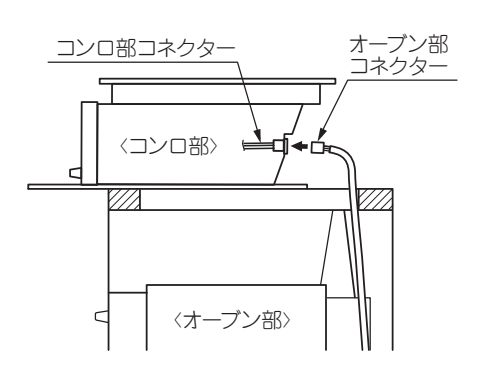


3．レンジフードファン連動機能付コンロの配線方法

① レンジフードファン連動機能付コンロの作業

◉コンロ右後部のコネクターにオーブン部配線のコネクターを確実に差し込んでください。

◉オーブン部のコネクターを確実に差し込まないとオーブン使用時にレンジフードファンが作動しません。



5 コンロの単独設置

1．開梱して機器を取り出す

① 開梱して機器を取り出す。 図1

◉輸送のため各部品にあて紙や包装部材がありますので、全部取り除いてください。

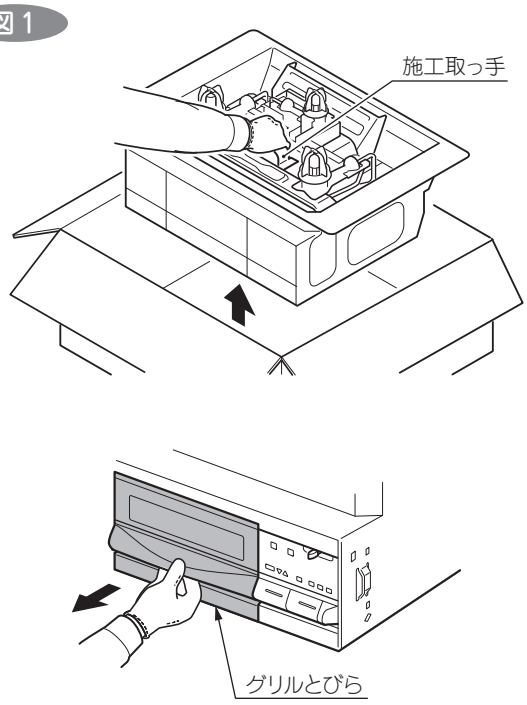
※必ず施工取っ手を持ってください。本体側部を持って機器を持ち上げると、本体側部が変形してトッププレートが浮き上がる原因となります。

※施工用キャップをはずさないでください。トッププレートをセットする時に使用します。

② グリルとびらを取りはずす。

◉包装部材を取りはずして、グリル焼網、下火カバー（右･左）、魚とって（魚とってが同梱してある機種）を取り出してください。

図1



2．単独設置用の底シール栓の取りはずし

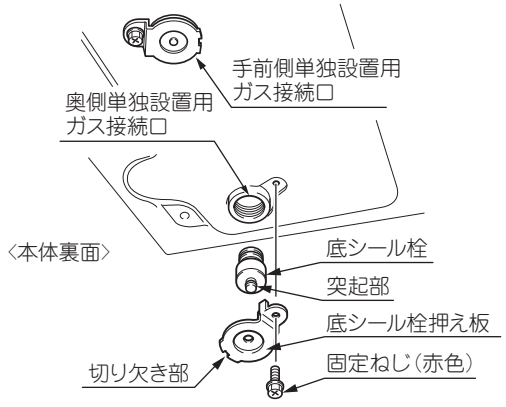
① ガス接続口の底シール栓を取りはずす。 図2

◉底シール栓の取りはずしは、ガス配管接続を行う個所のみ取りはずしてください。

◉本体底面左側にある固定ねじ（赤色）1本をはずし、底シール栓押え板をはずし、底シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜いてください。

図2 底シール栓を2個所ともはずさない

（38、78タイプの場合）



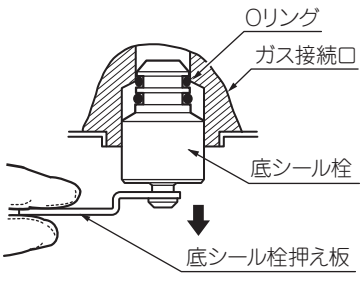
◉ペンチなど工具がない場合は、底シール栓の突起部に底シール栓押え板の切り欠き部を引っかけて、抜いてください。 図3

◉取りはずした底シール栓、底シール栓押え板、固定ねじ（赤色）は不要です。

※38、78タイプの場合はガス接続口が2個所あります。

※31、71タイプの場合は単独設置用ガス接続口は奥側のみです。

図3



⚠注意

■ビルトインオーブンを接続する場合は、底シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。

禁止

■底シール栓を 2 個所ともはずさない（38、78タイプの場合）

■機器設置とガス配管接続工事を同時に行わない場合は、機器設置時には底シール栓をはずさない

ガス漏れの原因になります。

3．コンロの設置

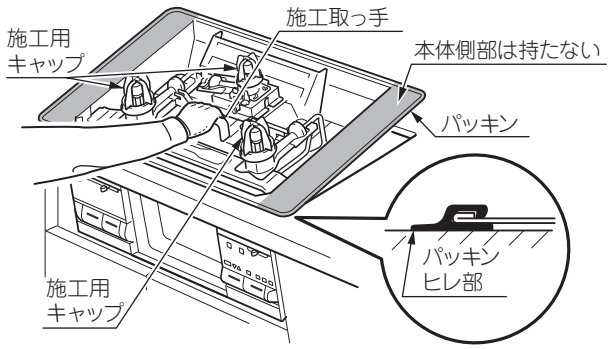
① ビルトインコンロの施工取っ手を持ち、前面を先に挿入して、前パネル・つまみなどに傷がつかないよう注意しながら、コンロをはめ込みます。

図 4

◉はめ込み時は必ず施工取っ手を持ってはめ込んでください。

※本体側部を持たないでください。バーナー・バーナー支えなどの燃焼部品を持ってはめ込むと燃焼不良の原因になります。

図 4



お願い

◉施工用キャップを装着したままワークトップにはめ込んでください。

◉パッキンが本体からはずれていないか確認してください。

◉必ずパッキンのヒレ部が丸まっていないか確認してください。（特にコーナー部）
丸まっている場合は、丸まりを直してください。

4．下火カバー・グリルとびら・エンドピースの取り付け

●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

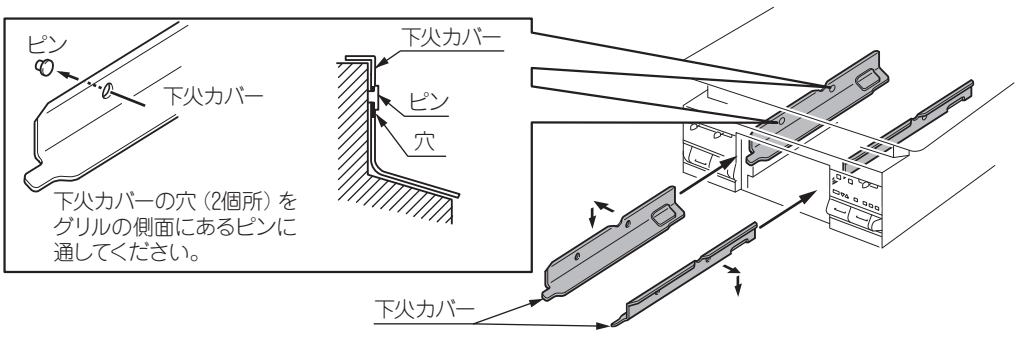
◉下火カバーの穴（2 個所）をグリルの側面にあるピンに通してください。

◉エンドピースの上下凸部をパネル側面の穴に差し込んでください。

◉エンドピースは左右共通です。

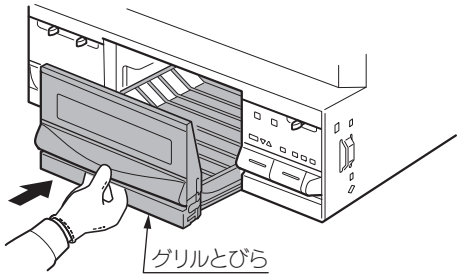
図 5

下火カバー

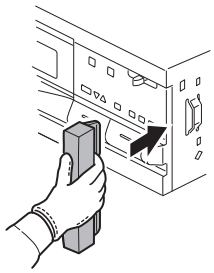


※下火カバーを付属していない機種もあります。

グリルとびら



エンドピース



お願い　◉魚とってが同梱してある機種は、魚とってをグリル庫内に置かないでください。

5．機器の固定

①　コンロをワークトップに固定する。　図 6

◉機器を固定する前に、機器の前面とキャビネットとびらの前面が合うように機器の位置を調整してください。

◉本体側面に付いている止めねじ 4 本を回して、機器を動かない程度に固定してください。

※締め込みすぎると、ワークトップを壊したり、コンロが変形したり、トッププレートが浮く原因になります。

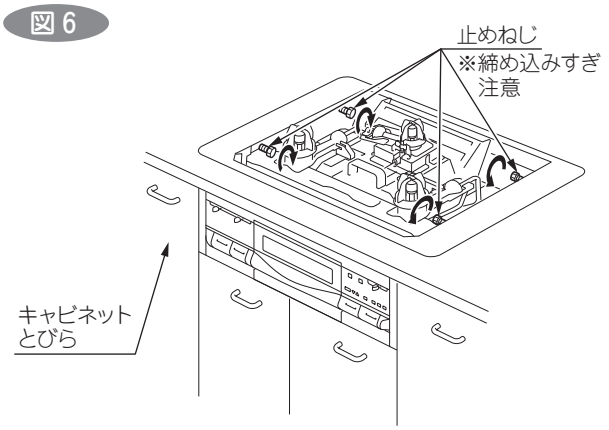
〈使用工具〉

プラスドライバー、スパナ（呼び 8 ）、ペンチ

◉スパナがない場合は、ペンチ・プライヤー・ラジオペンチなどで止めねじの六角部をはさんで、ねじを回してください。

※工具を使用する際には、バーナーに傷をつけないようにしてください。

図 6

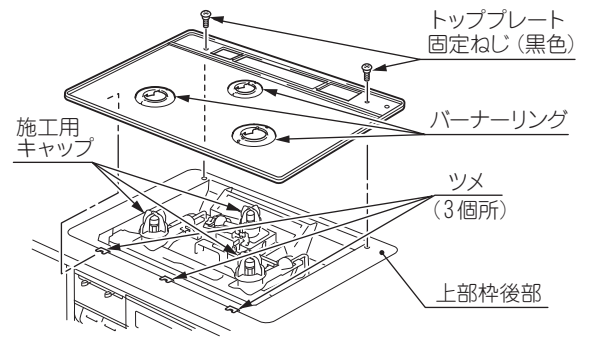


6．トッププレートをセットする

①　上部枠後部に止めてあるトッププレート固定ねじ（黒色）2 本をはずす。（このねじは③で再度使用します）　図 7 － A

（ステンレス枠トッププレートの場合はトッププレート固定ねじは同梱してあります）

図 7 － A　アルミ枠トッププレートの場合



② 施工用キャップをガイドにして、トッププレートをセットする。

◉点火プラグや立消え安全装置をバーナーリングの穴へ通すようにしながら、トッププレートをセットしてください。 図7－C

◉トッププレートを前に動かしてツメ(3個所)に引っかける。 図7－A 図7－B

◉トッププレートにツメが引っかからないときは、グリル前枠部分とワークトップをはさむようにして機器を少し(0.5mm程)持ち上げながらトッププレートを前に引くと引っかかります。 図8

※グリルバーナーには手を触れないでください。

※トッププレートの取り扱いには十分に注意してください。割れ欠けの原因になります。

③ ①で取りはずしたトッププレート固定ねじを使用して、トッププレートを固定する。
(ステンレス枠トッププレートの場合はトッププレート固定ねじは同梱してあります)

お願い

◉バーナーを傷つけたり点火プラグを曲げたりしないよう注意してください。

◉バーナーリングを持って運搬しないでください。

◉バーナーリングに傷がつきますのでリング側を立てかけたり、床などに置いたりしないでください。

④ トッププレートセット後、施工用キャップを取りはずす。

図7－B ステンレス枠トッププレートの場合

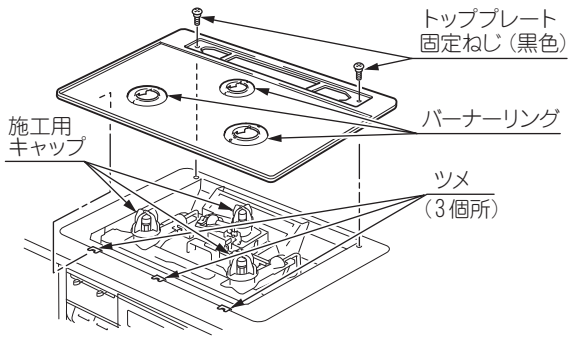


図7－C

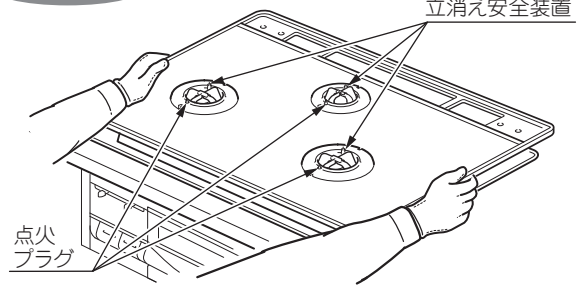
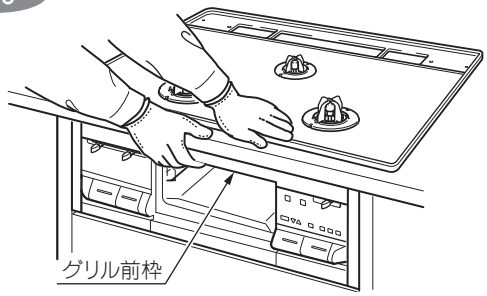


図8



⚠注意

■トッププレートは確実に取り付ける

■トッププレートのセットは浮きがないように上部枠パッキンに確実にはめ込む

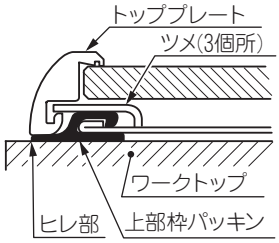
確認

●セットがかたい場合は上部枠パッキンを本体側に押し込んでなじませてください。 図10

■上部枠パッキンのヒレ部が丸まっていないか必ず確認する

●ヒレ部が丸まっている場合は丸まりを直してください。 図9

図9



⚠注意

●ツメ（3個所）に引っかかっていない場合はトッププレートをはずし、再度やり直してください。その場合、前端のツメに先に引っかけてトッププレートを矢印方向に回転させてセットしてください。

確認

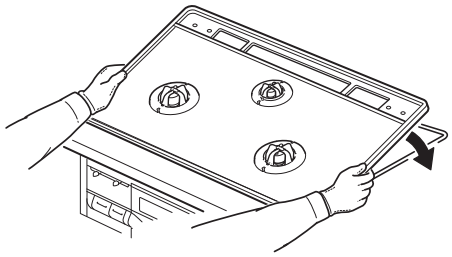
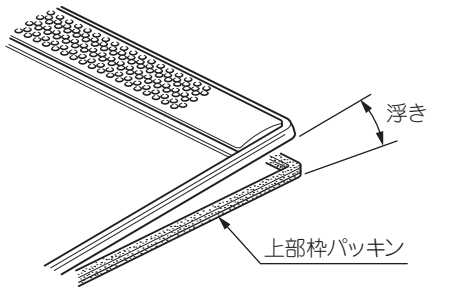


図10

禁止



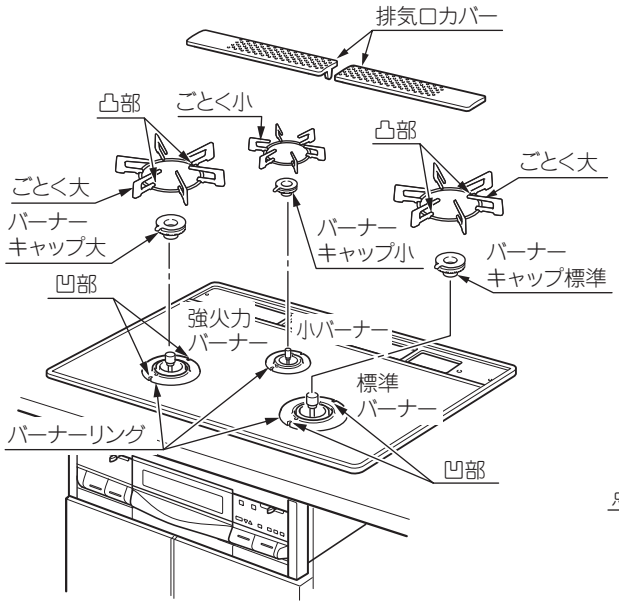
7．部品の取り付け

●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

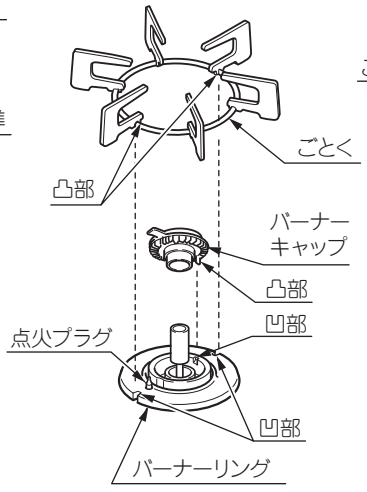
◉バーナーキャップ、ごとくは、下図のように正しくセットしてください。

※図は強火力バーナーが左側の機器です。強火力バーナーが右側の機器は強火力バーナーと標準バーナーが逆になります。

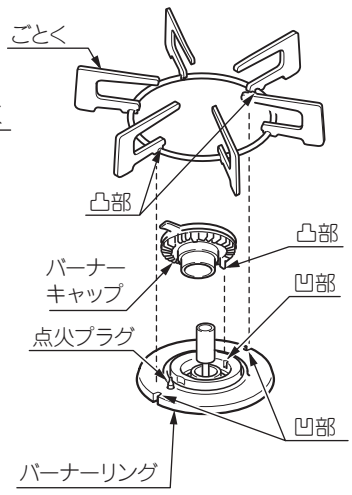
図11



小バーナー



標準バーナー・強火力バーナー



ごとく

◉ごとく内側の凸部2個所をバーナーリング前後の凹部2個所に入れて正しくセットしてください。

バーナーキャップ

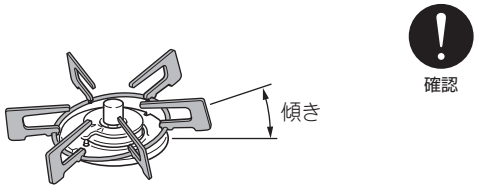
◉凸部を前にしてバーナー本体後側の凹部にバーナーキャップのピンを入れて正しくセットしてください。

※強火力バーナーのバーナーキャップには、Hの刻印が表示してあります。

⚠注意

■ごとくは正しくセットする

●誤ったセットをするとなべなどが不安定になり、傾いたり、倒れたりします。



誤ったセット例

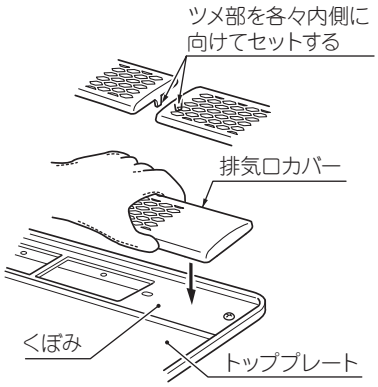
■バーナーキャップは誤ったセットで使用しない

●バーナーキャップを正しく取り付けないと、点火しなかったり、炎のふぞろいや逆火を起こし、不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれがあります。また炎が機器にもぐりこんで、焼損することがあります。

バーナーキャップの浮き　　バーナーキャップの裏返し

排気口カバー

◉ 2つの排気口カバーのツメ部を各々内側に向けトッププレートのくぼみにセットしてください。



8．乾電池の取り付け

●詳しくは、取扱説明書を参照してください。

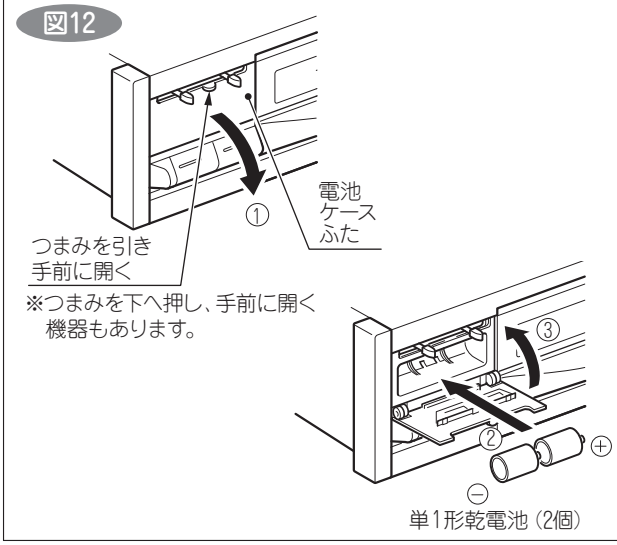
図12

① 電池ケースふたのつまみを引き手前に開いてください。（つまみを下へ押して手前に開く機器もあります）

② 単1形乾電池（1.5V）2個を図のように正しくはめ込んでください。

③ 電池ケースふたを元に戻してください。

図12



9．ガス配管工事・ガス配管接続工事

◉ 4 ガス配管工事・ガス配管接続工事・配線工事 を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行ってください。

◉必ず、ガス漏れ検査を行ってください。

7 設置工事後の点検確認 の項目に進んでください

6 コンロとオーブンのセットでの設置

※オーブンとセットで設置する場合、オーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照し、**トッププレートから後面の可燃物との距離**を確認し、コンロとオーブン両方満足する距離を確保して、設置してください。

※対応オーブンとは、型式にU、S（例：RSR-S14E）とつくタイプです。それ以外のタイプは、別売のオーブン接続キットが必要になります。詳しくは、お買い上げの販売店、またはもよりの当社事業所にお問い合わせください。

※新設置コンロは工場出荷時、コンロ単品での設置仕様になっております。これをオーブンと接続できる仕様に変更する必要があります。

1．部品の取りはずし

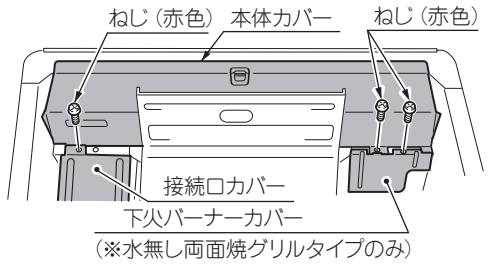
① グリルとびらを取りはずす。
（P 9 図 1 を参照してください）

② 本体カバー、接続口カバー、下火バーナーカバー（水無し両面焼グリルタイプのみ）を取りはずす。

◉固定ねじ（赤色）3本をはずして取りはずしてください。 図13

※下火バーナーカバーは再び使用します。

図13



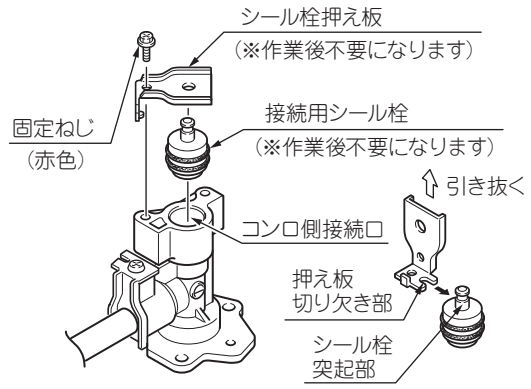
③ コンロ側接続口の接続用シール栓を取りはずす。
図14

◉本体内左後部にあるコンロ側接続口の固定ねじ（赤色）1本をはずす。（固定ねじは再び使用します）

◉シール栓押え板を回転させてから、取り出したのちに、接続用シール栓の突起部をペンチなどではさんで、引き抜いてください。

◉工具がない場合は、シール栓の突起部にシール栓押え板の切り欠き部を引っかけて、抜いてください。

図14



⚠注意

■コンロを単独設置する場合は、接続用シール栓をはずさない

禁止

ガス漏れの原因になります。

■底シール栓、底シール栓押え板が確実にはまっていることを確認する

確認

●確実にはまっていないとガス漏れの原因になります。

■底シール栓押え板の固定ねじ（赤色）がゆるんでいないことを確認する

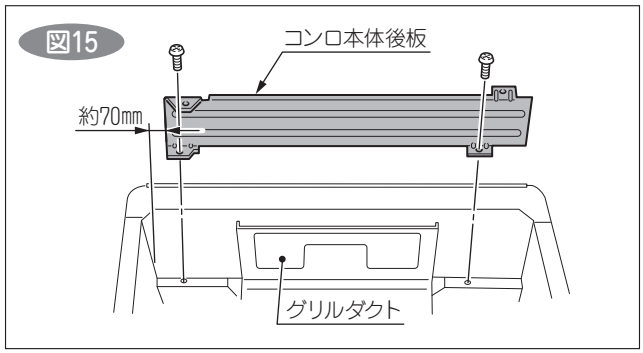
●固定ねじ(赤色)がゆるんでいると底シール栓押え板がはずれて、底シール栓が抜け落ち、ガス漏れの原因になります。

2．部品の取り付け

① コンロ本体後板を取り付ける。 図15

◉オーブンに同梱してあるコンロ本体後板を固定ねじ2本で本体後部、右側の方に取り付けてください。

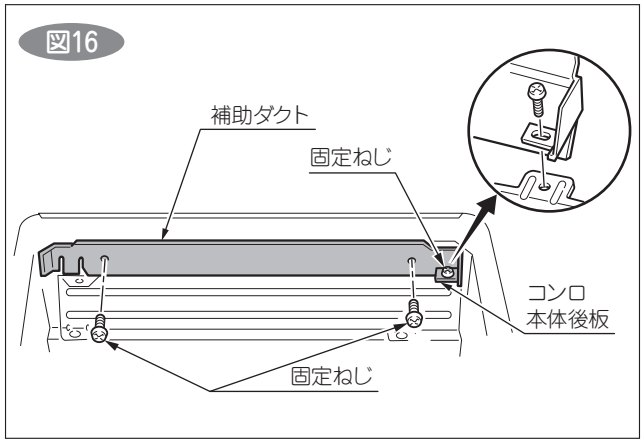
◉グリルダクトに当たって、コンロ本体後板が取り付かない場合は、小バーナーをはずしグリルダクトをはずしてください。



② 補助ダクトを取り付ける。 図16

◉オーブンに同梱してある補助ダクトを本体上部枠後部に手前から固定ねじ2本で取り付けてください。

◉コンロ本体後板右側に固定ねじ1本で補助ダクトを取り付ける。

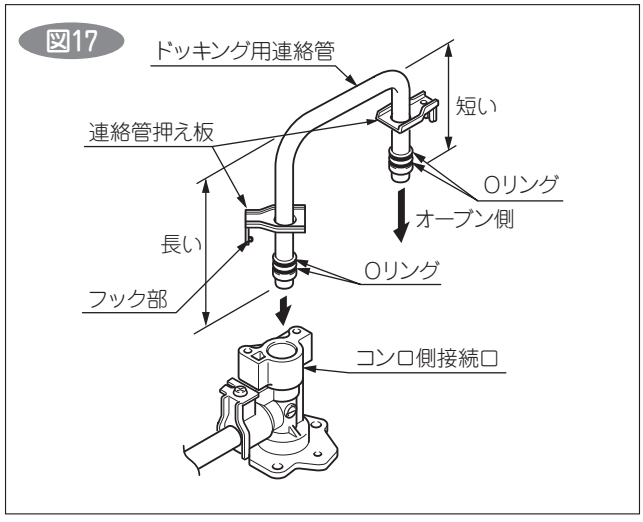


3．ドッキング用連絡管の取り付け

※ドッキング用連絡管の取り付けは、コンロをオーブンに組み込んだ後での作業も可能です。

① ドッキング用連絡管を取り付ける。 図17

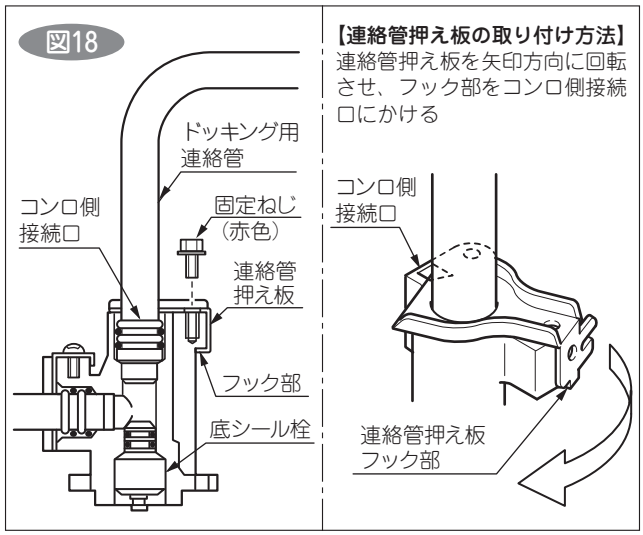
◉ビルトインオーブンに同梱してあるドッキング用連絡管の長い方をコンロ側接続口に、確実に奥まで挿入する。



② 連絡管押え板を取り付ける。 図18

◉ドッキング用連絡管に付いている連絡管押え板を回転させ、フック部がコンロ側接続口にかかるようにして、 図14 ではずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付けてください。（取り付け位置は2個所ありますが、どちらでも取り付けできます）

◉連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を確実に奥まで押し込んでください。



⚠注意

■ドッキング用連絡管にOリングが4個付いていることと、Oリングに傷がついていないことを確認する

確認

●Oリングの数が不足していたり、傷がついているとガス漏れの原因になります。

■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない

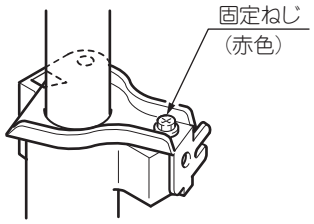
禁止

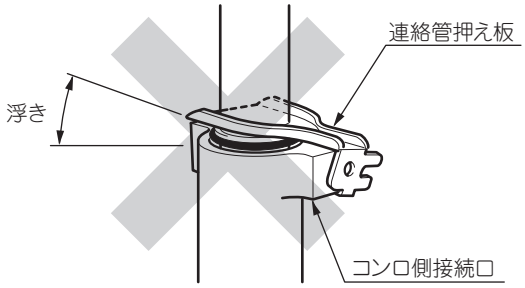
●グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■連絡管押え板が浮いていないか確認する
■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する

確認

●固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。





4．コンロの組み込み前の作業

① ビルトインオーブンの設置作業

◉ビルトインオーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して設置してください。

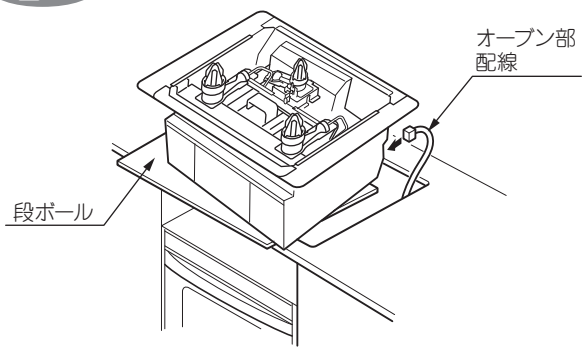
◉オーブンの接続用シール栓をはずしてください。

② レンジフードファン連動タイプの場合の作業

◉カウンターに傷をつけないように段ボールなどを敷きその上にコンロ部を乗せ作業を行ってください。

図19

図19

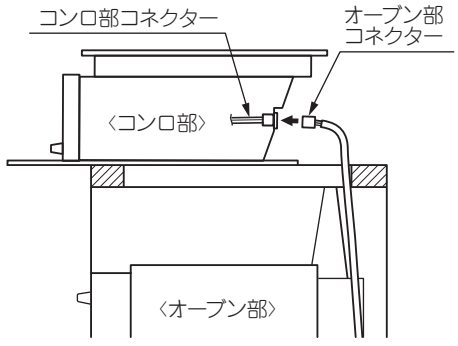


◉コンロ右後部のコネクターにオーブン部配線のコネクターを後ろから確実に差し込んでください。

図19 図20

◉オーブン部のコネクターを確実に差し込まないとオーブン使用時にレンジフードファンが作動しません。

図20



5．コンロの組み込み

① コンロを組み込む。

◉設置時には必ずコンロの施工取っ手を持って作業を行ってください。 図21

◉前面を先に挿入し、オーブン部の排気ボックスに乗り上げないように注意しながら、ドッキング用連絡管の管端を、オーブンの接続口に合わせて挿入し、コンロをオーブンに取り付けます。

図21 図23

◉ドッキング用連絡管をオーブンの接続口に最後までもう一度押し込んでください。 図23

※コンロ部の補助ダクトが、オーブン部の排気ボックスに乗り上げていないか確認してください。

図22

② 連絡管押え板を取り付ける。 図23

◉ドッキング用連絡管に付いているオーブン側の連絡管押え板を回転させ、フック部がオーブン側接続口にかかるようにして、オーブン側接続口から取りはずした固定ねじ（赤色）1本で確実に取り付けてください。

◉連絡管押え板が回転できずに、浮き上がるときは連絡管を奥まで押し込んでください。

※オーブン側接続口に届かない場合は、オーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照し、オーブンの高さ調節をして、確実に接続してください。

図21

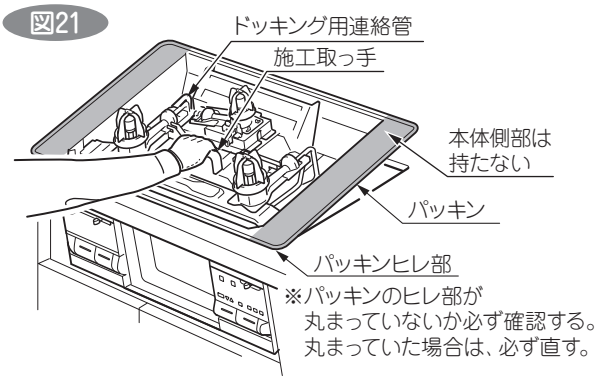


図22

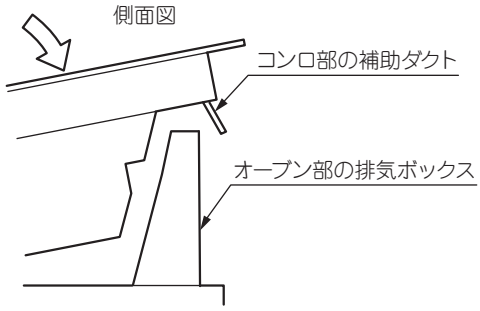
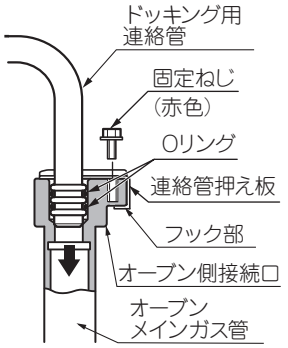
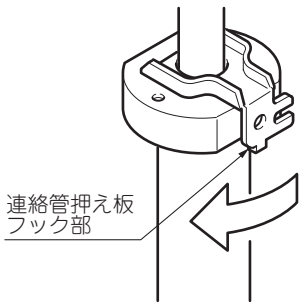


図23



【連絡管押え板の取り付け方法】
連絡管押え板を矢印方向に回転させ、フック部をオーブン側接続口にかける



⚠注意

■Oリングに傷をつけない

ガス漏れの原因になります。

禁止

■Oリング部のグリスをふき取らない。また、ガス用シール剤を塗布しない

●グリスをふき取ったり、ガス用シール剤を塗布すると、ガス漏れの原因になります。

■Oリングが付いていることを確認する

■ドッキング用連絡管の接続は、確実に行う

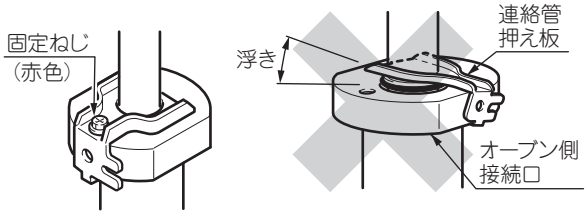
確認

■連絡管押え板が浮いていないか確認する

■固定ねじが確実に取り付けてあるか確認する

確認

●固定ねじ（赤色）が取り付けてなかったり、ゆるんでいたりすると、ガス漏れの原因になります。



6．下火カバー・グリルとびら・エンドピースの取り付け

※コンロ単独設置の場合の P10、11 図 5 を参照して、取り付けてください。

7．機器の固定

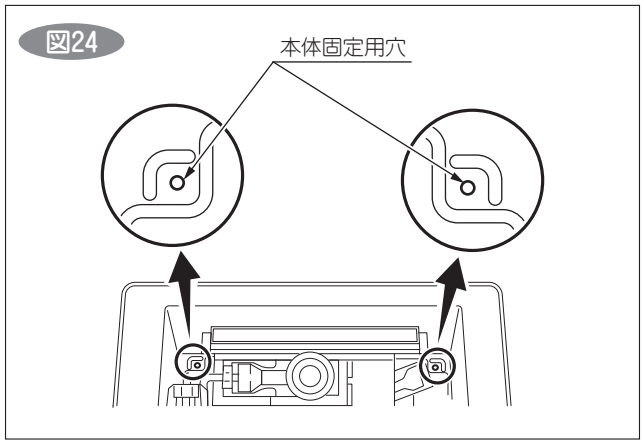
① コンロ部とオーブン部を固定する。 図24

◉コンロ部の本体固定用穴とオーブン部の本体固定用ねじ穴を合わせてください。また、コンロ部の前面とオーブン部の前面が合っているか確認してください。

◉オーブンに同梱してある本体固定ねじ(M５ねじ(赤色)) ２本で固定します。

② ワークトップに固定する。

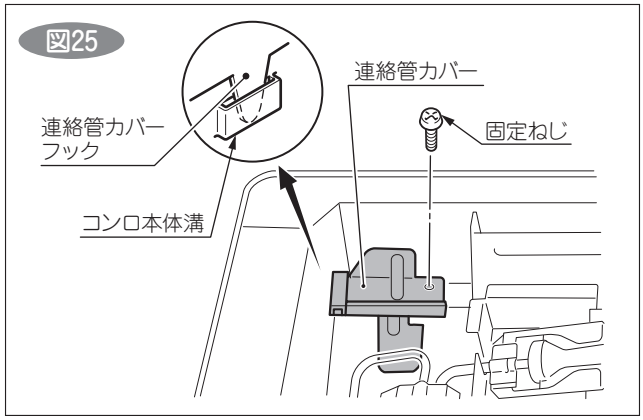
※コンロ単独設置の場合の P11 図 6 を参照して、止めねじ４本で取り付けてください。



※オーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して、オーブンを固定してください。

8．連絡管カバーの取り付け

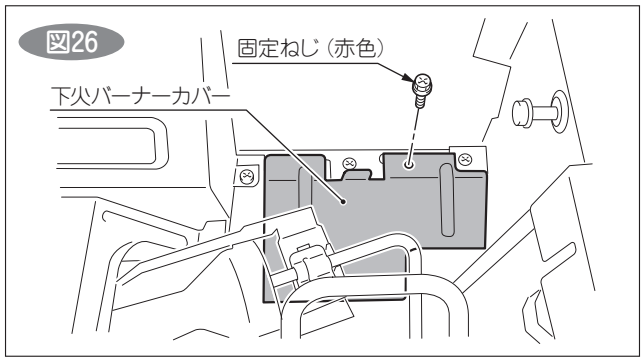
◉オーブンに同梱されている連絡管カバーのフックをコンロ本体の溝に引っかけ、もう一方は、コンロ本体後板の左側に、固定ねじ１本で固定します。 図25



9．下火バーナーカバーの取り付け

※水無し両面焼グリルタイプのみ

◉ P15 図13 にて取りはずした下火バーナーカバーを 図13 ではずした固定ねじ（赤色）１本で固定します。 図26



10．部品の取り付け

◉トッププレート・排気口カバー・ごとく・バーナーキャップ・乾電池などを取り付けます。

※ 5 コンロの単独設置 P11～14を参照して、取り付けてください。

11．ガス配管工事・ガス配管接続工事

※オーブンに同梱されている「設置工事説明書」を参照して、ガス配管工事およびガス配管接続工事を行ってください。

※必ず、ガス漏れ検査を行ってください。

7 設置工事後の点検確認

◉チェックリストに基づいて確認してください。

点検項目		点検内容	参照項目	チェック
機器およびその周辺	ガス種	使用するガス種に適合しているか。（銘板確認）	1	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分か。	1	
		オーブンとセットで設置する場合、オーブンの設置工事説明書で離隔距離を確認したか。		
	水平設置	水平にセットされているか。	1	
	安定設置	ガタツキはないか。	1	
	換気設備	十分換気できる場所に設置されているか。	1	
キャビネット		キャビネットに背板があるか（機器後方に穴があいていないか）	1	
ガス配管接続工事		ガス漏れはないか。	5	
ラベル貼付		接続員の施工者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付したか。		
同梱部品		部品の不足はないか。また正しく取り付けられているか。	3	
レンジフードファン連動		レンジフードファンが正しく作動するか。	4 6	
その他		グリル、オーブン庫内に包装部材が残っていないか。		

8 試点火および試運転

① 試点火および試運転

◉正しく設置工事されていることを確認してからガス栓（ねじガス栓）を開き取扱説明書に基づき、試運転を行ってください。

② 試運転終了後の処置

◉試運転終了後長期間使用しない場合は、ガス栓(ねじガス栓)を閉め、乾電池を取りはずしてください。また、オーブンを設置した場合には、電源プラグをコンセントから抜いてください。

◉魚とってが同梱してある機種は、魚とってをグリル庫内に保管せずにお客様にお渡しするか、トッププレート中央部に置いてください。

③ お客様への説明

◉必ず取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

◉必ず取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、保証内容を説明してください。

◉取扱説明書、設置工事説明書の保管のお願いをしてください。

製造者 リンナイ株式会社